

ニ依リ蔓延スト云フ故ニ近時世人ハ健全ナル飲水ノ供給ニ關シ大ニ意ヲ用ヒ之ニ力ヲ盡スコト、ナレリ予ハ左ニ伯林府水道事業ノ計算ヲ舉ケテ該府カ水道ノ事ニ盡力スル一端ヲ示サントス即チ千八百八十五年度ニ於テ伯林全府ノ消費ニ係ル水量ハ二千六百萬立方メートル一人ノ消費高二十二立方メートル四分ノ一ニシテ水道管ノ延長ハ百五拾里ナリ

収入 四、七九一、九五七、マルク  
 支出 三、一五三、〇九七  
 純益 一、六三八、八六〇  
 内事業改良資金五〇〇、〇〇〇

帳簿登載資本金三六、三二四、〇〇〇

支出額ノ内一、五九六、〇〇〇ハ資本ノ利子、六五七、〇〇〇ハ元金償還ニ拂ヒ殘額一、〇〇〇、〇〇〇「マルク」ハ事務費ニ係レリ故ニ事務費ハ水量一立方メートルニ付四片ペンニヒ即チ水壹石ニ付貳里ノ割合ナリ「巴里府ハ水道事業ヨリ毎年三百萬圓餘ヲ收入ス但シ其收入額ハ未ダ資本金ノ利子及償還金ヲ扣除セサルモノナリ市府ノ飲水供給ト親密ノ關係アル他ノ一事業アリ即チ塵埃、糞尿、各種ノ廢棄物、汚水等ノ排除是レナリ此事業ハ實際極メテ重要ノモノニシテ而カモ至難トスル所ナリ技術上ノ問題アル外ニ又農業ト關係ヲ有シ茲

ニ數言ヲ以テ略論スルユト能ハス伯林及巴里ニ於テハ近頃巨萬ノ資本ヲ卸シテ汚物排除ノ裝置ヲ設ケ其地勢平坦ナルニ因リ總テ蒸氣ポンプヲ以テ汚物ヲ排出ス伯林ニ於テハ煉瓦ヲ以テ構造シタル排水路ノ延長貳拾五里ニシテ粘土製導管ノ延長殆ト百里ヲ超ユ其日々排出スル汚水ノ量ハ平均拾萬貳千立方メートルナリト云フ此事業ノ收支計算左ノ如シ

資本金	六四、三三三、〇〇〇マルク
収入	三、三七七、〇〇〇
支出	五、一四八、〇〇〇
差引支出超過	一、七七一、〇〇〇

〔内資本ノ利子二、〇二〇、〇〇〇  
元金償還 五九二、〇〇〇〕

不足額ハ水道事業ノ利益ヲ以テ補充ス

衛生事務ト幾分ノ連絡ヲ有スル營造物ニシテ主トシテ食料品ノ供給ヲ整理スルカ爲メニ設置スルモノ亦尠カラズ蓋シ斯ル營造物アルトキハ健康ニ害アル食料品ノ販賣ヲ制止シ若クハ監督スルニ便利ナリ例之ハ家畜市場屠獸場普通食料品市場ノ如キ是レナリ屠獸場ニ就テ言ハンニ其目的ハ第一ニ一般ノ消費ニ供セントスル屠肉ノ健全ナルヤ否ヤヲ検査シ第二ニ屠獸ニ因リテ近傍ノ私有地ニ加ヘントスル諸般ノ妨害ヲ減少スルニアリ此事ニ關シテ各國多クハ法律ヲ以テ市町村ノ權限ヲ定ム例之ハ學國千八百八十一年

三月九日ノ法律ノ如シ此法律ニ依レハ市町村ニシテ公共屠獸場ヲ設置スルトキハ其場所ニ限リテ畜獸ノ屠殺ヲ許シ他ノ場所ニ於テ屠殺ヲ禁スルノ命令ヲ發スルコトヲ得ルナリ佛國ニ於テハ法律ニ依リ直接ニ公共屠獸場外ノ屠殺ヲ禁シタリ又肉類検査及屠獸場使用ニ對スル手数料ハ孛國ニ於テ其實費並營造物ノ資本金ノ利子及償還ニ係ル費額ヨリモ多キコトヲ得ス故ニ屠獸場ノ收入ニシテ純益アルトキハ其純益ハ事實上屠獸稅ニ属スルモノトス

完全ナル屠獸場ハ家畜ノ廐舎屠殺所廢棄物ノ精製所及指油精煉所ノ四部ヲ備ヘサルヘカラス末段ノ三部

ハ何レノ國ニ於テモ衛生上ノ理由ヨリシテ警察官ノ監察ヲ受ル營業ニ属ス

伯林府屠獸場ノ計算 千八百八十五年度 左ノ如シ

資本金 一、二〇〇、〇〇〇「マルク」

収入 六一〇、六一八

内屠獸料 五〇七、〇五九

支出 四六三、三〇四

内元金償還及利子支拂高 二二九、三六五

収入ノ剩餘額ハ一部ヲ資本金ノ償還ニ充テ、一部ヲ翌年度ニ探越シタリ

其他ニ肉類検査ノ収支計算ハ左ノ如シ

収入 三二九、九八二「マルク」

内手敷料 二六一・五一一

支出 二八二・一〇二

収入ノ剩餘額ハ翌年度ニ繰越シタリ

千八百八十五年伯林府ノ屠獸場ニ於テ屠殺シタル家畜ノ頭數左ノ如シ

牛 九七六七六頭

猪 七八六〇二頭

豚 二八三一五一頭

羊 一七三三三七頭

肉ノ重量大約六千貳百貳拾萬「キログラム」入口ニ割合ヘハ壹人ノ消費高八拾「キログラム」  
(魚肉ハ壹人ノ消費高拾五「キログラム」ニ當レリ)

巴里ノ屠獸場ハ同年ニ於テ三百三拾八萬法<sup>フラン</sup>ヲ收入シタリ

其他ノ營造物品家畜及食料ニ在テハ日常食料品ノ輸入

ヲ整理シ及之ニ穩當ノ相場ヲ有セシムルヲ以テ其主眼トス。是レ大都府ニ於テ特ニ緊要ナルモノニシテ之カ目的ヲ達スルニハ市場ヲ建設シテ一定ノ時間ニ販賣者ト購買者トヲ集合セシメ且ツ成ルヘク僅少ナル時間ト費用ヲ以テ賣買取引ヲ爲サシメサルヘカラス夫レ貨物ノ相場ハ之ヲ賣ラント欲スル者ト之ヲ買ハント欲スル者トノ意思投合ニ因リテ定マリ即チ需要供給ノ關係ニ因リテ決スルコト經濟學ノ通則ナレモ日用缺クヘカヲサレ食料品ニ在テハ此通則ヲ適用スルコト能ハス何トナレハ購買者ハ其食料品タルカ爲メ其自然ノ相場ニ達スルマテ購買ヲ遷延スルコト能

ハサレハナリ各種ノ小賣商ニ在テモ亦此通則必シモ  
 適當スルモノニアラス此ニ於テ都會ノ地ハ往々無數  
 ノ小賣商人増殖シテ生産者ト消費者ノ間ニ立入り各  
 々應分ノ利益ヲ占メントシ以テ徒ラニ小賣相場ヲ騰  
 昂スルノ危険アルヲ免レス故ニ一方ニ於テハ中間商  
 人ノ無數ニ増殖スルコトヲ制シ一方ニ於テハ販賣者  
 中ニ充分ノ競争ヲ起サシメ以テ大都府ニ於テ食料品  
 ノ相場騰貴スルノ危険ヲ防カサルヘカラス其方法ハ  
 則テ都府ノ監督下ニ立タル適良ノ市場ヲ設置スルニ  
 アルノミ

多量ノ肉類ヲ消費スル土地ニ於テハ家畜ノ生産者カ

家畜購買者ヲシテ充分ニ競争セシメ得ヘキ家畜市場  
 ナ設置セサルヘカラス此ノ如キ市場ハ相當ノ厩舎ヲ  
 有シ此ニ遠路ノ運搬ニ疲勞シタル畜獸ヲ休憩セシメ  
 並相當ニ飼養スルノ裝置ヲクンハアルヘカラス歐洲  
 ノ大都府ニ於ル家畜市場ノ規模ハ甚々大ナリ例之ハ  
 伯林府家畜市場ノ經濟ヲ見ルニ左ノ如シ

収入 一、七二四、三九四マルク  
 支出 一三、〇六、九六六（内三六二、九一五マルクハ元  
 金償還及利子支拂ニ充ツ）  
 純益 四一七、四二八

千八百八十五年市場ニ出シタル家畜ノ數左ノ如シ

牛 一五一、一八六頭 犢 一一九、〇二一頭  
 豚 四五二、二五四頭 羊 六六二、四〇九頭

本來ノ食料品賣買ニ在テハ成ルヘク同種類ノ物品ヲ一ヶ所ニ集メテ賣買セシメ且ツ大量ノ取引ト小量ノ賣買ニ在テハ其場所及時間ヲ異ニスルヲ要ス往昔ハ街路若クハ廣場ニ於テ此ノ如キ取引賣買ヲ爲シタレ  
 且輓近ハ商人及公衆殊ニ物品ノ保護ノ爲メニ屋蓋アル取引所ヲ建設シ同時ニ監察ヲ容易ナラシメタリ往昔ニ於ルカ如ク路上ニ市ヲ開クトキハ雨雪等ノ日ニ於テ販賣者少數ナルトキハ物品ノ相場頓ニ騰貴スルノ弊アリ屋蓋アル取引所ハ巴里及一般ニ佛國ニ於テ甚々整備セリ近時ハ他ノ諸國ニ於テモ亦之ニ摸倣セリ巴里府ハ府立市場ヨリ毎年大約貳千萬圓ヲ收入ス

ト云フ彼ノ大商人ト小賣商ノ間若クハ商人ト消費者ノ間ニ立テテ利益ヲ占得スル中間商ノ増殖ヲ制限シ以テ食料品ヲ大ニ廉價ザラシムルノ施設モ亦佛國ニ淵源ス其施設トハ即チ市町村ノ命シタル競賣者ヲシテ食料品ヲ公ニ競賣セシムルコト是レナリ

市町村營造物ノ種類甚々多シト雖モ茲ニ悉ク列舉スルコト能ハス前ニ述ヘタルモノ、外尙其重モナル種類ハ鐵道馬車公共倉庫公共秤量所通常倉庫ノ傍ラニ設置シ大量ノ貨物ヲ秤ス等ナリ佛國ノ市町村ハ死體埋葬ノ事業ヲ爲スモノアリ

市町村ノ作業ハ何人ヲシテ之ヲ管理セシメテ可ナル

ヤト言フニ概シテ市町村ノ役員ヲシテ其事ニ從ハシムルニ如ス然レモ市町村ニ於テ適當ノ役員無ク隨テ其熟練ヲ缺クトキハ當初之ヲ一個人ニ貸付スルモ不可ナルコトナシ但シ之ヲ貸付スルトキハ借受人ヨリ毎年一定ノ金額又ハ其作業益金ノ一部ヲ納メシムヘシ

總テ市町村ニ於テ前ニ述ヘタル如キ作業ヲ營ムニハ先ツ其資金ヲ調達セサルヲ得ス而シテ其資金ハ固ヨリ租税ニ望ムヘカラス唯公債ニ依テ之ヲ調達スルノ一途アルノミ其公債ノ事ハ後回ノ講義ニ於テ論述スヘシ

明治二十二年三月二十九日「ラートゲン」氏講義筆記

第十回

前回ニ於テ講述シタル市町村ノ經濟事業ハ巨大ノ資本金ヲ要スルモノナレハ本日ハ更ニ進テ其資本金ヲ得ルノ方法ヲ論スヘシ抑々市町村ニ於テ其作業ノ資本金ヲ得ルニ如何ナル方法ヲ以テスルヤト問ヘハ之ニ答フル前、先ツ左ノ問題ヲ決セサルヘカラス即チ總テ公共團體ノ臨時費ハ如何シテ之ヲ支辨スヘキ乎經常歲入ノ幾分マテハ臨時歲入ヲ以テ補充スヘキモノナル乎又實際屢々生スル場合ニ就テ之ヲ言ヘハ市町村ノ如キ公共團體ノ費用ハ幾分マテ租税ニ依リ幾分

マテ公債ニ依リ之ヲ支辨スヘキモノナル乎此問題ニ  
關シテ市町村ノ爲メ考慮スヘキ點ハ國家ノ爲メ計畫  
スヘキ點ト大要相同レキモノトス夫レ市町村ハ猶國  
家ノ如ク永久生存スト考定セラレタル無形人ナリ其  
歲入歲出ノ間ニ永ク權衡ヲ保タシメントノ期圖ハ市  
町村ニ於テモ國家ニ於テモ俱ニ緊要ナル事トス故ニ  
國家カ將來ノ人民ノ負擔スヘキ費額ヲ現在ノ人民ヨ  
リ收斂シテ苛重ニ失スヘカラサル事並現在ノ人民ノ  
負擔スヘキ費額ヲ將來ノ人民ニ推移スヘカラサル事  
ハ市町村ニモ亦適用スヘシ  
經常費トハ公共事務ノ爲メニ定期ニ消費シ各會計年

度ニ反覆スル所ノ需要ヲ言フ此經常費ハ經常收入ヲ  
以テ支辨セサルヘカラス臨時費ハ不時ニ生スル巨大  
ノ需要ニシテ其効力現在ノ會計年度ヲ超越スルモノ  
ヲ言フ此臨時費ハ公債ヲ募集シテ之ヲ支辨スルコト  
ヲ得ヘシ然リ而シテ大ナル公共團體ニ於テハ斯ノ如  
キ臨時ノ需要斷エス生來スルモノニシテ或ハ此事件  
或ハ彼事件ニ對シテ臨時幾分ノ費用ヲ要スルコトア  
リ故ニ財務ニ注意スル者ハ臨時費ノ一部ヲ經常收入  
ヨリ支辨スルノ豫算ヲ設ク大都府ニ於ル道路橋梁修  
繕費ノ如キハ毎年殆ト同一ノ額ニテ反覆生來スルモ  
ノナレハ之カ豫算ヲ設ルニ於テ甚タ難カラサルヘシ



臨時費ヲ支辨スル爲メ公債ヲ起スコトハ如何ナル効  
用ヲ爲スヤト問フニ即チ此ニ依テ其臨時ノ負擔ヲ幾  
多ノ年數ニ分配シ其年數間ニ經常收入ノ内ヨリ資本  
ト利子ヲ支拂フモノナリ他語ヲ以テ言ヘハ公債ヲ起  
スコトハ將來ノ歲入ヲ一時ニ操上ケ前拂ヒスルニ外  
ナラス。故ニ殖利的作業ノ資本トシテ公債ヲ起スハ其  
作業ノ収益ヲ先取スルニ外ナラス其他ノ公債ニ在テ  
ハ將來ノ納稅額ヲ先取スルモノト謂フヘシ  
市町村ノ公債ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ起スヘキヤ  
ト問フニ第一ニ非常ノ事變アリテ巨大ノ出費ヲ要ス  
ルニ當リ經常收入就中一ケ年分ノ租稅ヲ以テ之ヲ支

辨セントスルトキハ納稅者ノ痛苦トナルヘキ恐レア  
ル場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス斯ノ如キ非常ノ出費  
ハ凶荒疫病等ノ爲メ之ヲ要スルコトアルヘシ第二ニ  
市町村ノ爲メ直接若クハ間接ニ利益ヲ生スル所ノ造  
營物ヲ設ケントスル場合ニ於テハ公債ヲ起シテ可ナ  
リ是レ第一ノ場合ヨリモ屢々生來スルモノニシテ寧  
ロ重大ノ關係アリトス而シテ其直接ニ利益ヲ生スル  
所ノ造營物トハ嘗テ論シタル經濟上ノ作業ニシテ其  
公債ノ元金償還利子支拂ニ要スル金額ヲ自ラ産出ス  
ルモノヲ云フ又間接ニ利益アル造營物トハ直チニ市  
町村ノ財産ヲ増加セスト雖モ市町村民ノ資力ヲ高ム

ルモノヲ言フ例之ハ衛生上ノ施設改良、交通上ノ施設  
 (道路、溝渠、港灣)改良ノ如キハ地價ヲ騰貴セシメ、工商業  
 ナ振起シ以テ間接ニ市町村ニ利益ヲ與フルモノナリ  
 故ニ公債ハ將來ノ費用ヲ以テ現在ノ市町村事業ヲ振  
 作スヘキ方便ニ用ヒラル、コトヲ得ヘシ然レモ此方  
 便タルヤ動モスレハ濫用セラレテ將來ノ者ニ過重ノ  
 負擔ヲ遺傳シ將來ノ市町村ヲシテ其辨償ニ苦マシム  
 ルノ例決シテ尠カラズ現ニ伊太利ノ諸府及マドリッ  
 ト府ニ於テハ往年濫リニ公債ヲ起シ其額多キニ失シ  
 タルカ爲メ今日ハ殆ト其辨償ノ道ヲキニ困ミ將サニ  
 破産セントスルノ域ニ迫レリ是ヲ以テ何レノ國ニ於

テモ市町村ノ公債ヲ起シテ將來ノ者ニ負擔ヲ讓遺ス  
 ルノ權ハ之ヲ制限セサルハナシ英國ニ於テ市町村ハ  
 法律若クハ中央政府ノ特許ヲ得ルニアラサレハ公債  
 ナ起スコトヲ得ス佛國及孛國ニ於テ市町村ハ起債ノ  
 事ヲ議決スルコトヲ得ルモ之ヲ施行スル爲メ監督官  
 應ノ認可ヲ受ケサルヘカラス孛國ニ於テ市町村新ニ  
 公債ヲ起シ現在ノ負債額ヲ増ストキハ縣參事會ノ認  
 可ヲ受ルヲ要ス佛國ニ於テハ市町村ノ負債額ト其經  
 常歲入ト一定ノ權衡ヲ保タシメ若シ新ニ公債ヲ起ス  
 ニ因テ此權衡ヲ超ヘントスルトキハ政府ノ認可ヲ受  
 ケシム日本ニ於テハ佛孛二國ノ制ニ倣ヒ市町村ノ起

債權ニ一定ノ制限ヲ加ヘタリ即チ市制第百六條第二  
項ニ依ルニ市會ハ三十年以内ニ償還スヘキ公債募集  
ノ事ヲ議決スルコトヲ得ルト雖モ其議決ハ第百二十  
二條ニ依リ新債ト舊債ノ増加トニ拘ラス(並第百六條  
第二項ノ例ニ違フトキ)總テ内務大藏兩大臣ノ認可ヲ  
受クヘキモノトス但シ償還期限三年以内ノモノハ認  
可ヲ要セサルナリ其他市町村ノ歲入出權衡ヲ保ツ爲  
メニ借入スル一時ノ負債ニシテ同一年度内ニ償還ス  
ヘキモノハ日本ニ於テモ其他ノ諸國ニ於テモ別ニ制  
限セラル、所ナシ  
市町村カ公債ヲ募集スルノ方法ニ數種アリ其最モ簡

單ナルモノハ銀行及其他ノ債主ト契約ヲ結ビ資金ヲ  
借用スル方法ナリ是レ別ニ重大ノ關係アルモノニア  
ラス  
市町村カ國庫ヨリ資金ヲ借用スルノ例ハ屢々見ル所  
ノモノニシテ其方法ニ二種アリ一ハ國庫カ市町村ノ  
公共事業ニ要スル資金ノ貸付ヲ保證スルノ制是ナリ  
例之ハ英國ニ於テ毎年之ニ供スヘキ資金ハ國會ノ承  
認ヲ經テ之ヲ國庫ニ豫備スルカ如シ一ハ政府ハ一定  
ノ事業ノ爲メニ特ニ金庫ヲ設置シ市町村ヲシテ其事  
業ニ要スル資金ヲ該金庫ヨリ借用セシムルノ制是ナ  
リ例之ハ佛國ニ於テ千八百六十八年道路修築ノ爲メ

設置シタル金庫ノ如シ此金庫ハ市町村及縣ニ於テ道路修築ノ爲メ資金ヲ要スルトキハ一定ノ制限内ニ於テ之ニ資金ヲ貸付スルモノナリ佛國ハ其他學校建築ノ爲メニモ亦千八百七十八年同様ノ金庫ヲ設置セリ此金庫ハ新學制ノ施行ニ因リ學校ノ建設及裝置ニ要スル市町村ノ一大出費ヲ支辨シ易カラシメンカ爲メ設置シタルモノナリ

此ノ如キ目的ニ貸付スル資金ハ政府ニ於テ他ニ之ニ供スヘキ貯蓄金ナキ場合ニ於テハ自己ノ信用ヲ以テ之ヲ調達スルヲ例トス然レモ政府之カ爲メ自ラ損失ヲ被ラサラント欲スレハ之ヲ市町村ニ貸付スルニ當

リ稍々高キ利子ヲ徵收セサルヲ得ス若シ否ラサルトキハ政府ハ市町村ニ贈與ヲ爲スノ事實アリ時トシテ政府ハ殊更ラニ低利ノ金額ヲ貸付シテ此贈與ヲ爲スコトアリ(前記佛國ノ道路修築金庫及學校建築金庫ノ如キハ其一例ナリ)

然レモ國庫金ヲ市町村ニ貸付スルノ制ハ危險ナキニアラス何トナレハ市町村往々其辨償ヲ怠リ政府ハ竟ニ其返濟ヲ拋棄セサルヲ得サルノ場合尠カラサレハナリ故ニ予ハ日本ノ爲メ此制ヲ賞勸スルコト能ハス或ル公共金庫若クハ公共資金管理官ニ於テ其所有ノ資金ヲ利殖スルカ爲メニ一部分ヲ市町村ニ貸付スル

ノ制ハ前ニ述ヘタル國庫金ノ貸付ト全ク其旨趣ヲ異  
ニス。即チ佛國ニ於テ政府ノ預金々庫ヨリ金額ヲ貸付  
スルカ如キ是ナリ此ノ如キ預金々庫ハ人民ヨリ裁判  
所ニ預托シタル金銀普通ノ貯金國庫準備金其他市町  
村及公共建設場ノ貯藏金ヲ管理スルモノニシテ其融  
通シ得ヘキ金額ヲ一定ノ制限内ニ於テ市町村ニ貸付  
スルコトヲ得ヘシ獨逸ニ於テハ獨佛ノ戰爭ニ由テ佛  
國ヨリ收入シタル償金ノ一部ヲ以テ設立シタル廢兵  
給助金ナルモノアリ此金庫ハ廢兵ノ給助ヲ以テ目的  
トスルモノナレトモ亦其融通シ得ヘキ金額ヲ利殖ノ爲  
メ市町村ニ貸付スルコトヲ得ルナリ而シテ現ニ貸付

中ニアル金額甚々大ナリ  
日本ニ於テモ亦政府ノ管理スル一定ノ資金ハ市町村  
公債ニ流用シ得ラルヘキアルヘシ例之ハ郵便貯金及  
其他ノ預金政府及各府縣ニ於テ積立テタル備荒貯蓄  
金ノ如キハ利殖ノ爲メ其一部ヲ市町村ニ貸付スルモ  
不可ナルコトナカルヘシ現今此等ノ資金ヲ獨リ國債  
證書ニ換ヘテ積置クハ得策ニアラス  
然レモ斯ノ如キ資金ヲ市町村ニ貸付スルニ當リ返済  
期限ヲ永クシ其金額ヲ多年固着シ以テ其融通ヲ絶タ  
レムル如キハ固ヨリ之ヲ許サス隨テ又臨時ノ需要ヲ  
キチ確保スルノ金額ニアラサレハ貸付スヘカラス

十四  
其他ノ方法ハ政府ノ監督ヲ受ケ政府ヨリ特權ヲ得ヘ  
キ一種ノ銀行ヲ設立シ之ヲシテ市町村ノ爲メニ金融  
ヲ爲サシムルニアリ此銀行ノ事業ハ彼ノ土地抵當銀  
行ニ於ルト殆ト異ナラス即チ一方ニ於テハ資金ヲ貸  
出シ一方ニ於テハ證券抵當券ヲ發行シテ其貸出ニ必  
要ナル資金ヲ調達ス而シテ債主ニ對シ安全ヲ保スル  
ニハ銀行ノ請求權ト其固有ノ資本金トヲ以テス此種  
類ノ銀行ハ佛國ニ於テ特ニ發達セリ佛國ノ「クレヂー」  
「フホンシエー」ハ政府監督ノ下ニ立テル土地抵當銀行  
ニシテ千八百八十三年末ノ調査ニ據ルニ其市町村ニ  
貸付シタル資金現在高實ニ拾壹億千五百萬法日本ノ

國債現高ニ同シテ超エタリ獨逸及白耳義ニ於テモ亦  
此ノ如キ銀行アリ(學國ノ中央土地抵當銀行、エルサス  
州ノ地方土地抵當銀行)日本ニ於テモ地方自治制施行  
ハ後市町村ニ於テ大ニ資金ヲ要スルハ期ニ至レハ此  
ニ舉ケタル銀行ノ設立ハ最モ必要ナリトス  
歐羅巴ニ行ハレル本來ノ土地抵當銀行ハ日本ニ於テ  
大地主ノ數寡ナキニ因リ未タ俄カニ其必要ヲ見スト  
雖モ地方自治體ノ爲メ金融ヲ爲スヘキ銀行ハ早晚之  
ヲ必要トスル而已ナラス亦大ニ利益アル施設ニ屬ス  
例之ハ第十五國立銀行ノ如キハ嘗テ西南征討費トシ  
テ政府ニ貸シタル金額ノ還付ヲ得レハ其資金ヲ以テ

前述ノ事業ヲ營ムコトヲ得ヘシ  
 市町村ハ又猶政府ノ國債募集ニ於ルカ如ク公衆ニ向  
 テ公債ヲ募リ全ク同一ノ方式ニ依リ負債契約ヲ結フ  
 コトヲ得ヘシ然レモ此方法ハ大ナル市町村殊ニ大都  
 府ニシテ充分ニ世人ニ知ラレル自治体ニアラサレハ  
 目的ヲ達スルコト能ハス又其公債證券モ市場ノ取引  
 ニ供セラル、ダケノ員數ナクンハアルヘカラス故ニ  
 通常ノ市町村ハ此方法ヲ以テ公債ヲ募集スルコト能  
 ハサルヲ例トス何トナレハ其發行證券ハ資本ヲ卸サ  
 ントスル公衆ヲ刺衝スルニ足ラサレハナリ大ナル市  
 町村ニシテ公衆ノ信用アルモノハ政府ノ公債募集ニ

於ルト同一ノ方法ニ依リ證券ヲ發行シ廣ク公衆ヨリ  
 資金ヲ募集スルヲ利アリトス獨逸ニ於テ廢兵給助資  
 金ノ貸付金利子ハ一ケ年百分ノ四ナレモ伯林府ヨリ  
 發行スル府債證券ハ利子百分ノ三半ニテ其相場ハ一  
 ○二、九ナリ

此ノ如キ府債證券ハ國債證券ニ於ルト同様ノ方式ニ  
 依リ即チ無記名ニシテ豫メ利子ヲ定ムルヲ例トス然  
 レモ此方式ノ外ニ時トシテ抽籤公債及褒賞公債ヲ發  
 行スルコトアリ此公債ハ利子ノ全部若クハ一部ヲ抽  
 籤ニ依リテ配付スルモノニシテ幾分カ其證券ニ高キ  
 相場ヲ有セシムルノ効アリ巴里府發行ノ公債證券ハ

此方法ニ依レリ但シ此方法ハ投機ノ風ヲ盛ンナラシムルモノナレハ予ハ日本ノ爲メ之ヲ賞賛セス  
 國ノ公債ニ在テ屢々行ハレル固定公債ノ方法即チ定期ニ元金ヲ償還スヘキ義務ナク其利子ヲ永久ノ歳貢ニ變スルコトハ市町村ノ公債ニ適用スヘカラス何トナレハ市町村貧富ノ度ハ速ニ變換スルモノナルニ若シ其公債ノ利子ヲ永久ノ歳貢ニ變スルトキハ市町村ニ永久ノ負擔ヲ遺スニ至レハナリ總テ市町村ノ公債ニ在テハ其償還期限ヲ確定スルヲ要ス加之其期限ハ甚タ永カラサルヲ得策トス三十年ハ適度ナリ而シテ利息ノ低落スル時ニ當リ低利ノ公債ヲ以テ高利ノ公

債ニ換ヘンカ爲メ市町村ハ償還期限ノ豫告權即チ期限ニ先タテ元金償還ヲ爲スノ權ヲ保有スヘシ  
 終リニ臨ミ英佛二國市町村ノ公債額及伯林府ノ公債額ヲ示サンニ左ノ如シ

英國ノ市町村公債總額 千八百八十二年 凡ソ七億五千萬圓(二〇、七二、一〇〇磅)

佛國ノ市町村公債總額 千八百七十八年 凡ソ二億圓(七五七、七七八、〇〇〇法)

巴里府ノ公債總額 千八百八十四年 凡ソ四億五千萬圓(一、六九六、六九〇、二〇〇法)

伯林府ノ公債總額 千八百八十五年 凡ソ五千萬圓(一、四九、九九九、一五〇、マルク)



7122



明治廿二年十月十日出版合本十二號迄  
同 廿二年十一月廿五日再版

3370  
1

編纂者

鶴岡義五郎

東京市麹町區飯田町四丁目三十番地

印刷者兼

八尾新助

東京市神田區表神保町一番地

發行所

日本書籍會社

前同所

賣關所

吉岡平助

大阪市東區備後町四丁目七十八番屋敷

正價金五十錢

各地賣捌書林

東京神田區	全	有斐閣	土佐高知	澤本駒吉
全	敬業社	安藝廣島	早速社	
全	富山成山房	備前岡山	細瀨代社	
全	集省成山堂	尾張名古屋	川瀨代助	
全	三博堂	全	三輪文次郎	
全	博文堂	越前福井	品川太左衛門	
全	丸善書	加賀金澤	牧野作平	
全	大倉書	越中高岡	磯野小平	
全	岡島支書	信濃長野	西澤喜太郎	
全	岡島眞支書	越後新潟	櫻井產作	
京都	前川善兵衛	陸前仙臺	木村文助	
肥後熊本	大黒屋書	陸奥弘前	野崎久兵衛	
薩摩鹿兒島	長崎次郎	羽前山形	荒井大作	
肥前長崎	吉田幸兵衛	渡島函館	種勘七	

本社出版書目

●刑法博義

洋裝最上美本

正價金壹拾圓  
郵稅金八錢

樞密院顧問官勝伯題辭 ● 日本法學博士鳩山和夫君序  
日本法學博士熊野敏三君校閱 ● 山谷虎三著

●日本憲法正解

洋裝最美本

正價金六拾錢  
郵稅金八錢

帝國大學理科教授 ● 農林學校及海軍大學校教授 ● 獨乙國大學  
ロクトル(理學博士)北尾次郎著

●物理學

洋裝最美本  
(全三冊)

(近刻)

●普國憲法起原史

洋裝最美本

正價金五拾錢  
郵稅金五錢

樞密院顧問官勝伯題辭 ● 日本法律學士磯部四郎君校閱  
龍章榎山廣業著

●市町村制問答正解

洋裝最美本

正價金六拾錢  
郵稅金八錢

附理由書及參考諸法令

内務大臣松方伯題辭 ● 官報局長高橋健三君序  
 ハリストル 岡村輝彦君序 ● 法學士岡山兼吉君序  
 法學博士 田中迪三 ● 川瀬周次合著  
 ● 市町村議員必携 洋裝最美本

正價金四拾五錢  
 郵稅金六錢

日本 法學博士熊野敏三譯  
 佛國

● 國際公法 洋裝最美本

(近 刻

法學士土方寧 ● 文學士有賀長雄合譯  
 ● 羅馬法綱要 洋裝最美本

正價金六拾五錢  
 郵稅金八錢

米國大學教授ホーエン氏原著 ● 文學士有賀長雄譯述  
 ● 再版近世哲學 洋裝最美本

正價金十二錢  
 郵稅金四錢

伴操述  
 ● 再版日本流通手形法述義 洋裝美本

正價金貳十錢  
 郵稅金四錢

勝村榮之助著

● 商用簿記學原論 洋裝最美本

正價金五拾五錢  
 郵稅金六錢

樞密院顧問官勝伯題辭 ● 中島信行君序 ● 島田三郎君序  
 岩田德義著

● 改正 增補 基督教と社會との關係 洋裝美本

正價金三十五錢  
 郵稅金六錢

法學士土方寧君校閱 ● 山田研一著  
 ● 英動產委託法 洋裝美本

正價金三十五錢  
 郵稅金四錢

日本 法學博士井上正一 ● 日本 佛國 法律學士岸本辰雄合著  
 ● 人事法講義 洋裝最美本

正價金九十五錢  
 郵稅金十二錢

日本 佛國 法律學士岸本辰雄著  
 ● 商事會社法講義 洋裝最美本

正價金四十錢  
 郵稅金四錢

法學士加太邦憲著  
 ● 佛國 訴訟法講義 洋裝最美本

正價金七十錢  
 郵稅金十二錢

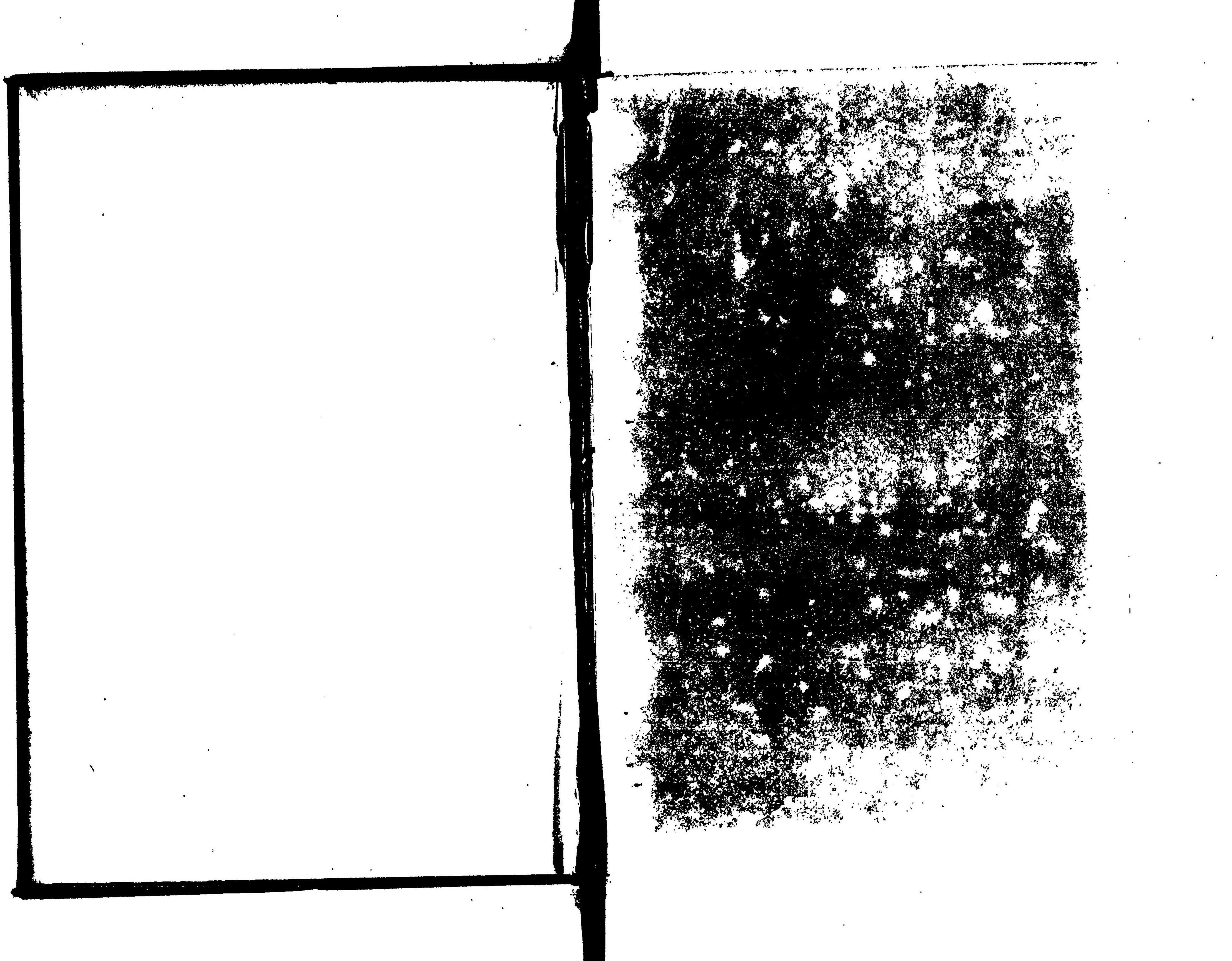
● 鈴操居士著  
● 高等普通文官代官  
試驗及第秘法  
洋製美本  
正價拾五錢共

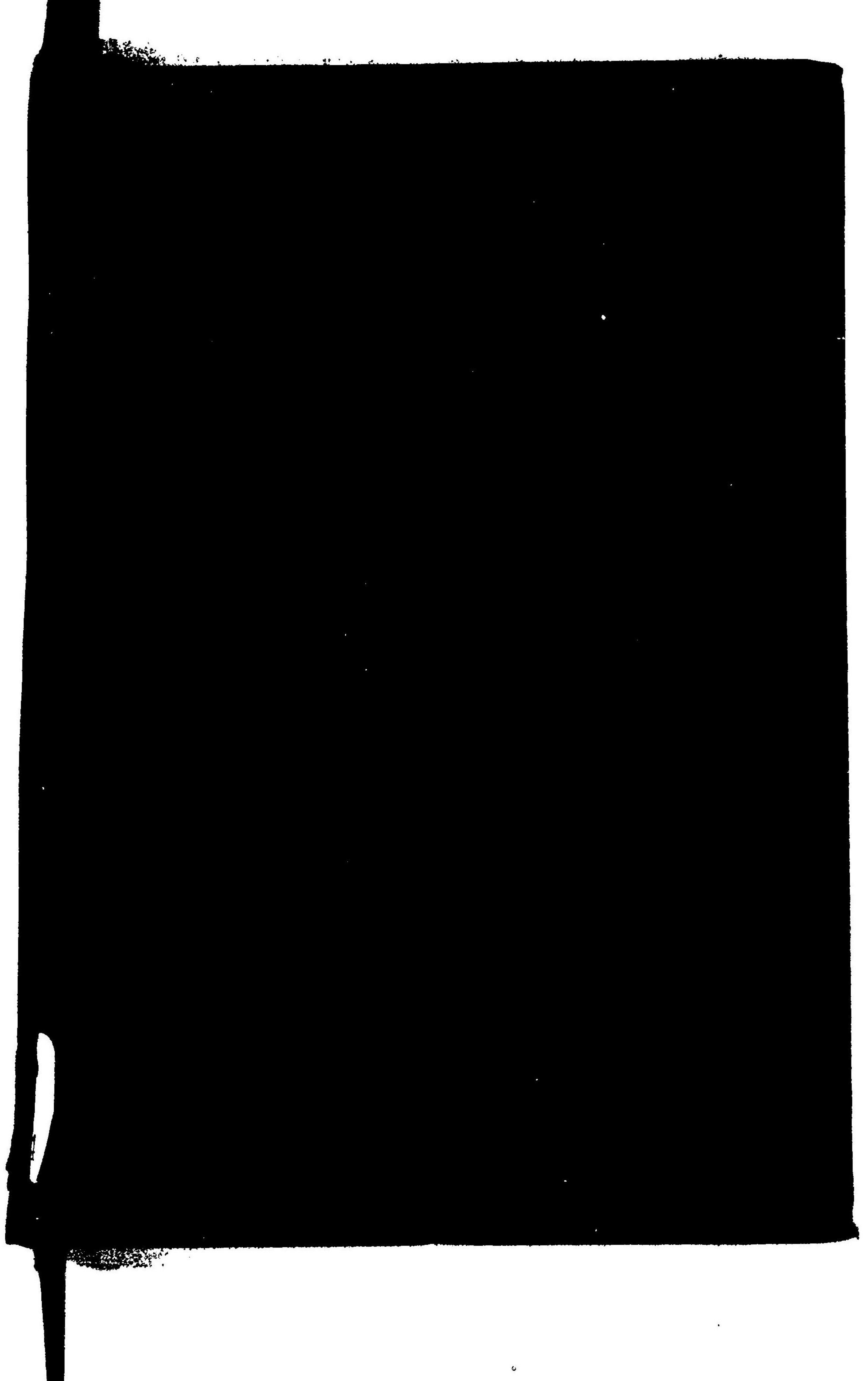
● 安住佐太郎編纂  
條約改正叢談  
洋製美本  
正價拾錢共

● 團井忠行著  
● 日本現行  
民事訴訟手續  
洋綴美本  
正價貳拾貳錢共

● 日本佛國  
法律學十岸本辰雄著  
法學通論  
洋綴美本  
正價拾錢共

● 內務省法律顧問モツセ講述  
自治制講義  
洋綴美本  
正價金六十錢





特70

344

040756-000-2

特70-344

地方財政学

ラートゲン/著

M22.11

BDE-0478



